



Working with Final Cut Pro X and AJA

Information in This Bulletin is Subject to Change
For use with Final Cut Pro X Version 10.0.3 and AJA 10.2 X Beta Drivers

January 30, 2012

ユーザーズガイド

Because it matters.



商標

AJA®、KONA®、XENA®は、AJAビデオシステムズ社の登録商標です。Ki Pro、Io Express、Io HDとIoは、AJAビデオシステムズ社の商標です。Apple、Appleロゴ、AppleShare、AppleTalk、FireWire、iPad、iPod Touch、Mac、Macintoshは、アップルコンピュータ株式会社Final Cut Proの登録商標です。QuickTime、QuickTimeロゴは、アップルコンピュータ株式会社の商標です。

著作権

Copyright © 2011 AJA Video Systems, Inc. 無断転載禁止。本マニュアルに記載したすべての情報は、予告なしに変更されることがあります。AJA Inc. の明示的な書面による許可なしに、本書のいかなる部分も、コピーや録音を含む、電子的または機械的な、いかなる形あるいは手段によっても、複製したり、送信したりすることは禁じられています。

サポート窓口

株式会社 アスク・アスク DCC サポートセンター

TEL: 03-5215-5694 FAX: 03-6672-6858 メール:dcc@ask-corp.jp 営業時間:平日
10:00 ~ 17:00(12:00 ~ 13:00 を除く)

AJA日本語サイト <http://www.aja-jp.com/> AJAサイト <http://www.aja.com/>

Final Cut Pro X and AJA

イントロダクション

Appleから新しく発売されたFinal Cut Pro Xは、映像業界で広く利用されてきたFinal Cut Proの最新版です。ユーザーインターフェースは刷新され、映像編集者を刺激する様々な特徴を備えています。

しかし、サードパーティ製品（AJA KONAカード/lo XT/lo Expressなど）との連携動作に関しては、以前のバージョンとは全く異なりますので注意が必要です。このドキュメントでは、どのようにして、最新版のFinal Cut ProでAJA製品を使用するかについて述べます。

ノート：このドキュメントは Final Cut Pro X バージョン10.0.3と、KONA, lo XT, lo Express用のAJA v10.2 X Betaドライバの為に公開されます。

Final Cut Pro X 推奨設定

皆さんはすぐにFinal Cut Pro Xを使いたいかもしれませんが、前バージョンで制作中のプロジェクトがまだ残っているかも知れません。AJAは、以前のFinal Cut ProとFinal Cut Pro Xを同じシステムにインストールすることを推奨しません。新規にLion OSをインストールした起動ディスクドライブを作成し、そのドライブへFinal Cut Pro Xをインストールすることを推奨します。こうすることで、以前のFinal Cut Proを使いながらも、AJA KONA X Betaドライバと新しいFinal Cut Pro Xを使い始めることができます。

ノート：AJA製品が必要とするシステム構成については、AJAウェブサイトのドキュメンテーションを参照ください。Apple Final Cut Pro Xの推奨システム条件については、Appleのウェブサイトを参照してください。

AJA製品とFinal Cut Pro X

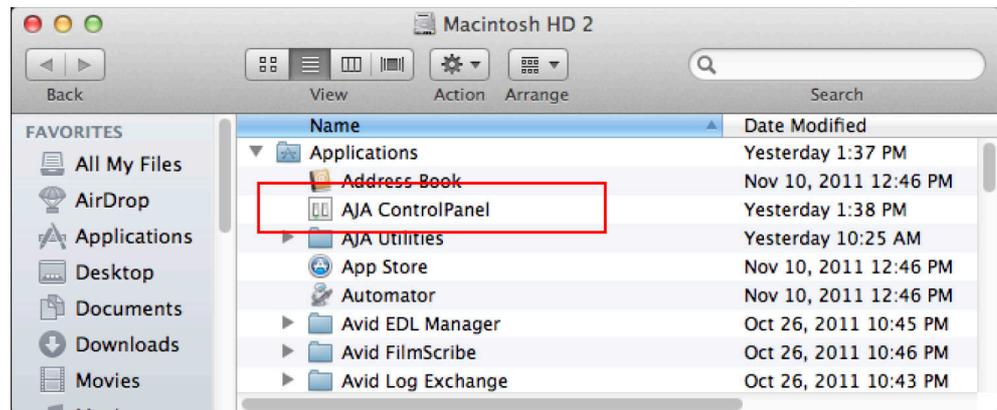
AJAの現行ソフトウェアの確認

Final Cut Pro XをサポートするAJA製品の最新ドライバがダウンロード、インストールされていることを確認してください。最新のドライバ情報は以下のURLより確認できます。

<http://www.aja.com/support/>

AJAコントロールパネルの起動

アプリケーションフォルダに移動し、AJA Control Panelを見つけて実行します。



フォーマットタブを選択

Formatタブで、Final Cut Pro Xから出力したいフォーマット/フレームレートを設定します。

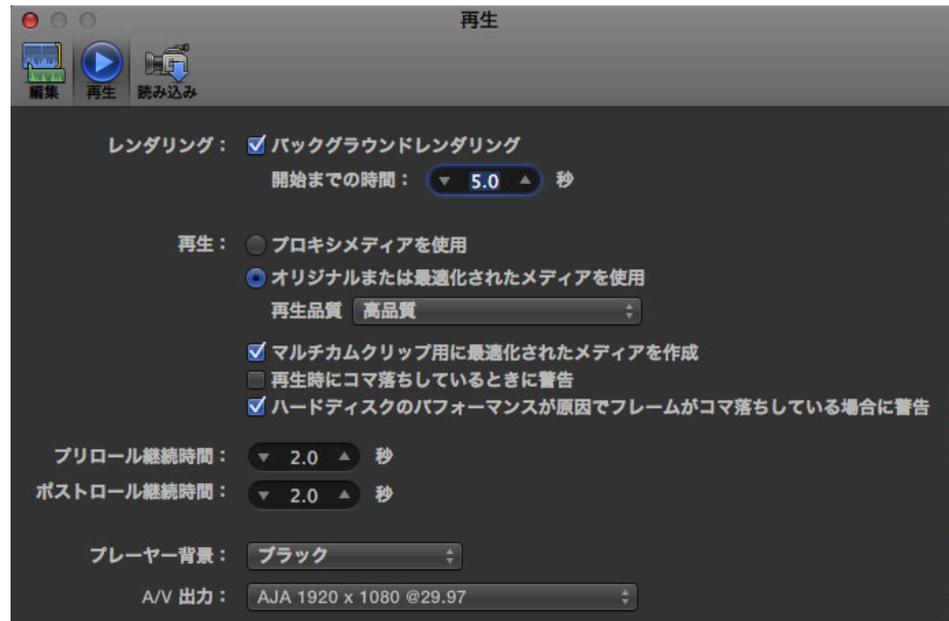


Final Cut Pro Xの環境設定と AJA A/V出力の設定

Final Cut Pro XのFinal Cut Pro プルダウンメニューから環境設定を開きます。



再生設定のA/V Output プルダウンメニューを探し、AJAハードウェアが選択されていることを確認してください。例：AJA [1920x1080@23.98](#)



Final Cut Pro XとAJAハードウェアに接続されたブロードキャストモニタから映像が出力されない場合は、イベントのクリップ、あるいはプロジェクトをスクラブしてください。

ビデオ出力が表示されない場合は、Final Cut Pro Xのウィンドウ プルダウンメニューにあるA/V出力がチェックされていることを確認してください。

しまう	⌘M
すべてしまう	
拡大/縮小	
イベントブラウザへ移動	⌘1
ビューアへ移動	⌘3
タイムラインへ移動	⌘2
インスペクタへ移動	⇧⌘4
カラーボードへ移動	⌘6
オーディオ補正へ移動	⌘8
プロジェクトライブラリを表示	⌘0
イベントライブラリを隠す	⇧⌘1
タイムラインインデックスを表示	⇧⌘2
インスペクタを隠す	⌘4
ビデオスコープを表示	⌘7
アングルビューアを表示	⇧⌘7
オーディオメーターを表示	⇧⌘8
メディアブラウザ	▶
オーディオを録音	
バックグラウンドタスク	⌘9
次のタブ	⇧→
前のタブ	⇧←
イベントをセカンドディスプレイに表示	
ビューアをセカンドディスプレイに表示	
✓ A/V 出力	
オリジナルレイアウトに戻す	
すべてを手前に移動	
✓ Final Cut Pro	
フルスクリーンにする	⇧⌘F

Final Cut Pro Xのビデオ出力は、プロジェクトに基づいて設定されます。出力を23.98から29.97に変更する必要がある場合は、Final Cut Pro Xを終了させた後、AJAコントロールパネルのフォーマットを変更し、再度Final Cut Pro Xを起動させる必要があります。使用されているフォーマットやフレームレートを分かりやすく把握するために、Final Cut Pro Xを使用する際は、AJAコントロールパネルを開いておくとうよいでしょう。

オーディオ出力の設定方法

KONA、Io XT、Io ExpressはCore Audioに対応しているため、いろいろなアプリケーションからシステム音、またはオーディオを出力することができます。この設定は「システム環境設定」>「サウンド」で行います。



「サウンド」では、使用できる出力装置を選択することができます。出力の項目でリストされているAJA KONAを選択します。



これでFinal Cut Pro Xを編集に使用する間、AJA KONA Io XT、Io Expressからビデオとオーディオのプレビューが出来るようになります。

クリップのキャプチャー

AJA VTR Xchange と Final Cut Pro X

Final Cut Pro Xの大きな変化の1つは、アプリケーション内でのキャプチャー機能「切り出しと取り込み」が削除されていることです。AJAは数年間にわたり、AJA VTR Xchangeと呼ぶキャプチャーソフトを無償で提供してきました。AJA VTR Xchangeはその名の通り、VTRを使ってのキャプチャと書き出しを行うアプリケーションで、キャプチャツールとして用いることができます。最新のAJA VTR Xchangeにはバッチキャプチャー機能も実装され、以前のFinal Cut Proに備わっていた「切り出しと取り込み」ツールのように使うことができます。

ノート：AJA VTR Xchangeは、AJAのサポートページからダウンロードできるスタンドアローン・アプリケーションです。なお、サポートされる機器はAJAハードウェアのみとなりますので、FireWireベースのカメラやVTRからのキャプチャーに使用することはできません。

重要：コーデックのインストール

前バージョンのFinal Cut ProとFinal Cut Pro Xのもう一つの違いは、インストール時に追加コーデックがインストールされないことです。例えばApple ProResファミリーでキャプチャーし、Final Cut Pro Xで使用するには、VTR Xchangeを使う前にFinal Cut Pro Xのインストールして、ソフトウェア・アップデートを行い、ProAppsQTCodecs.pkgをインストールする必要があります。

ノート：AJA VTR Xchangeを使ってキャプチャーを行う前に、この作業を行うことは非常に重要です。ソフトウェア・アップデートによりコーデックが追加インストールされていない状況では、限られた数のQuickTimeコーデックしか使用することができません。

AJA VTR Xchangeの設定

AJA VTR Xchangeは、デフォルトの起動において、入力されているビデオ信号がメインUIにプレビュー表示できるよう自動設定されます。



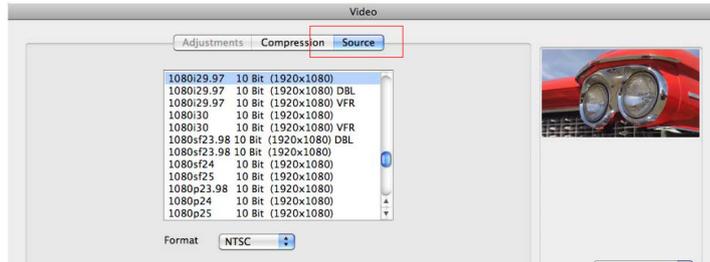
ただし、自動設定された設定が必要とされる設定になっているとは限らないので、「Capture」 > 「Video Settings」あるいは「Audio Settings」で適切な設定を確認する必要があります。

Capture Now ⌘K

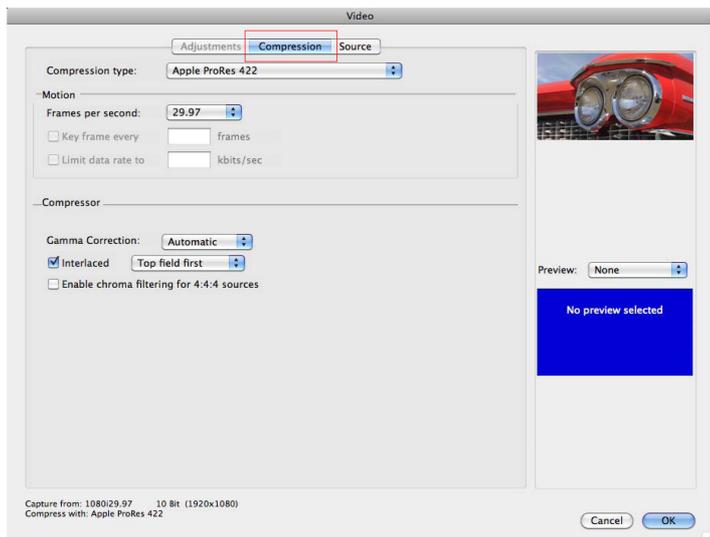
Video Settings...

Audio Settings...

Final Cut Pro Xで使うクリップは、ほとんどの場合Apple ProResコーデックでキャプチャーすることになるでしょう。AJA VTR Xchangeを使ってApple ProResコーデックキャプチャーを行うには、「Capture」>「Video Settings」を開き、最初に「Source」タブを開きます。フォーマットリストを確認し、Apple ProResコーデックが10ビットコーデックであるので、ソースとして"1080i29.97 10bit (1920x1080)"を選択します。

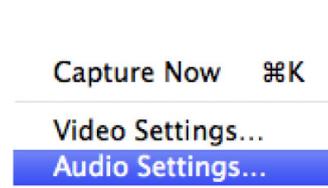


ついで、「Compression」タブを選択し、圧縮タイプでApple ProRes422(HQ)など任意のタイプを選択します。

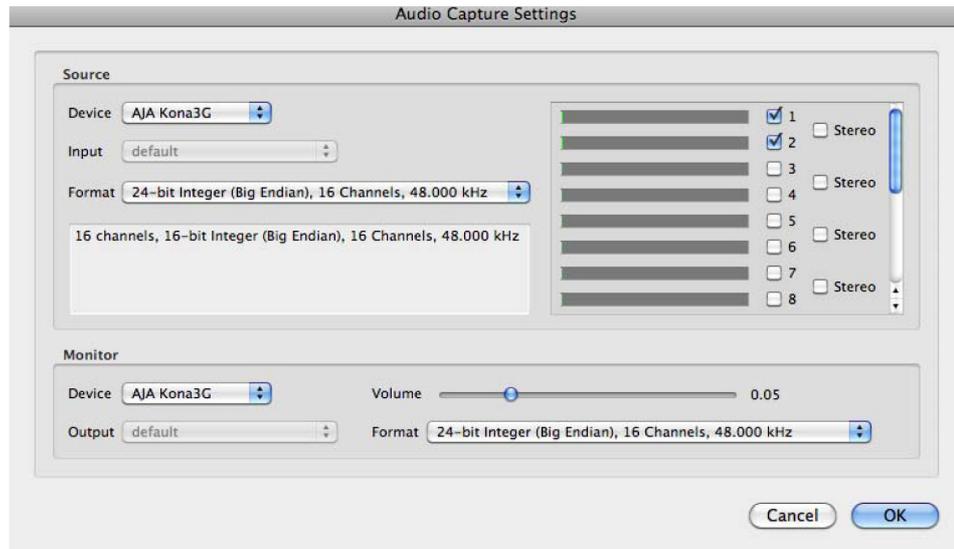


SourceとCompressionの設定が完了したら、ウィンドウ右下の「OK」をクリックします。

次に「Capture」>「Audio Settings」の設定を行います。



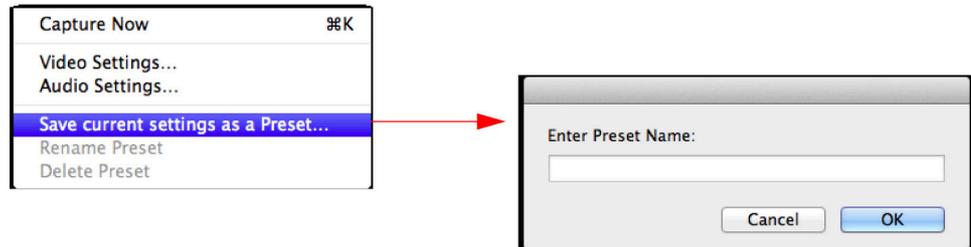
「Audio Settings」では、キャプチャーする音声チャンネル数とMono/Stereoの選択、そしてオーディオフォーマットの設定を行うことができます。



設定が完了したら、ウィンドウ右下の「OK」をクリックします。

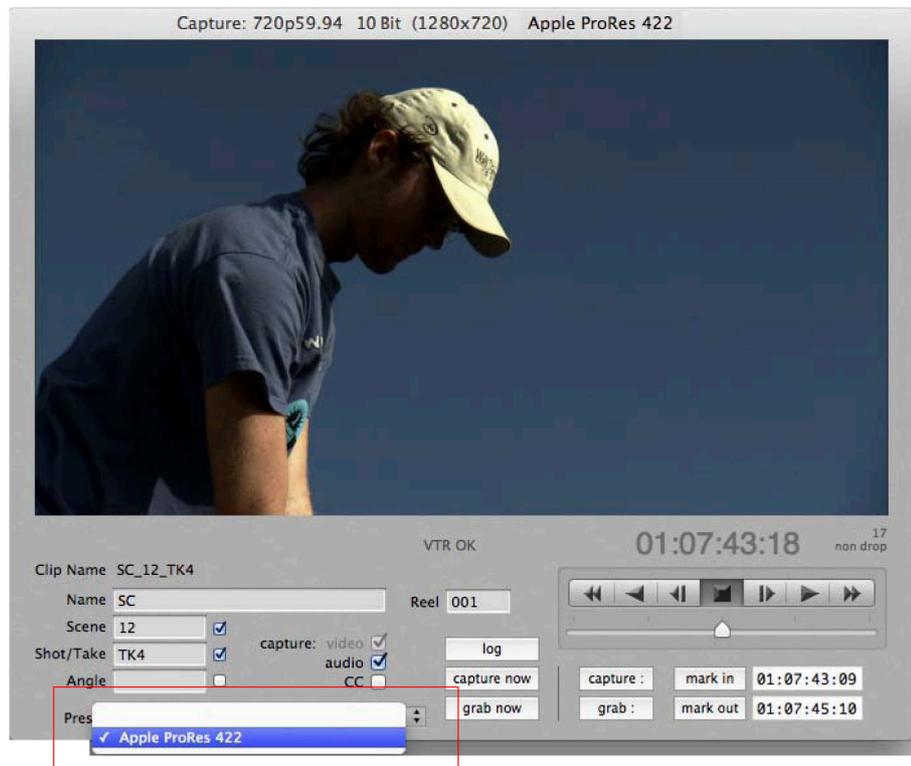
プリセット設定

1度設定したキャプチャーセッティングは、キャプチャーメニューの”Save Current settings as a Preset”を選択することで、いくつでも保存することが可能です。このメニューを選択すると、後に呼び出すためのプリセット名を入力するダイアログが開きます。



Save Current Settings as a Preset

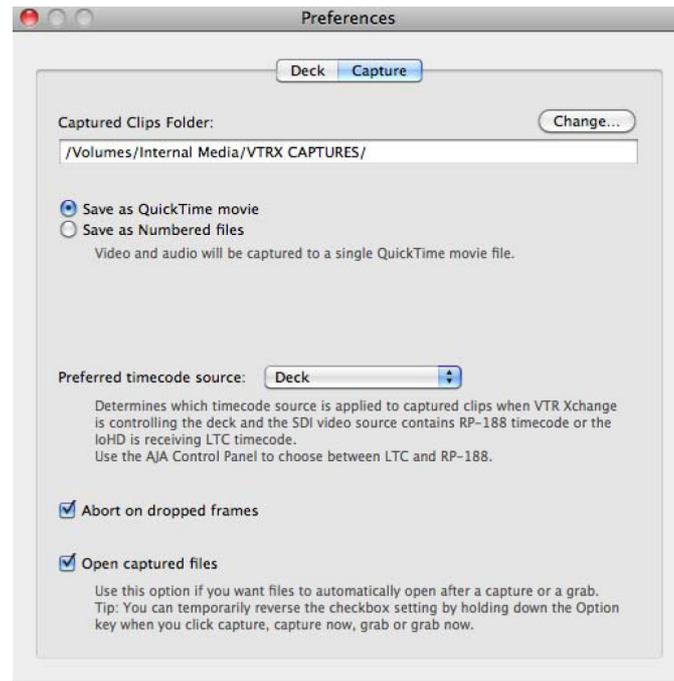
保存したプリセットの名称変更や消去は、キャプチャーのプルダウンメニューから行うことができます。



切り出しと取り込み

キャプチャーを始める前に、クリップをどこに保存するかを設定します。AJA VTR Xchangeのプルダウンメニューから「Preferences」を開き、「Capture」タブにある Captured Clips Folder : の「Change」ボタンでクリップの保存先を選択します。

ノート：保存先にキャプチャーしようとしているコーデックとフォーマット、およびフレームレートをサポートできる帯域幅と十分な領域が確保されていることを確認してください。

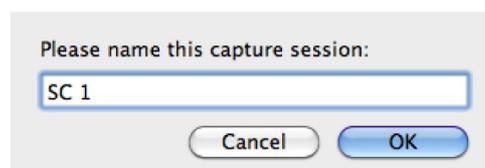


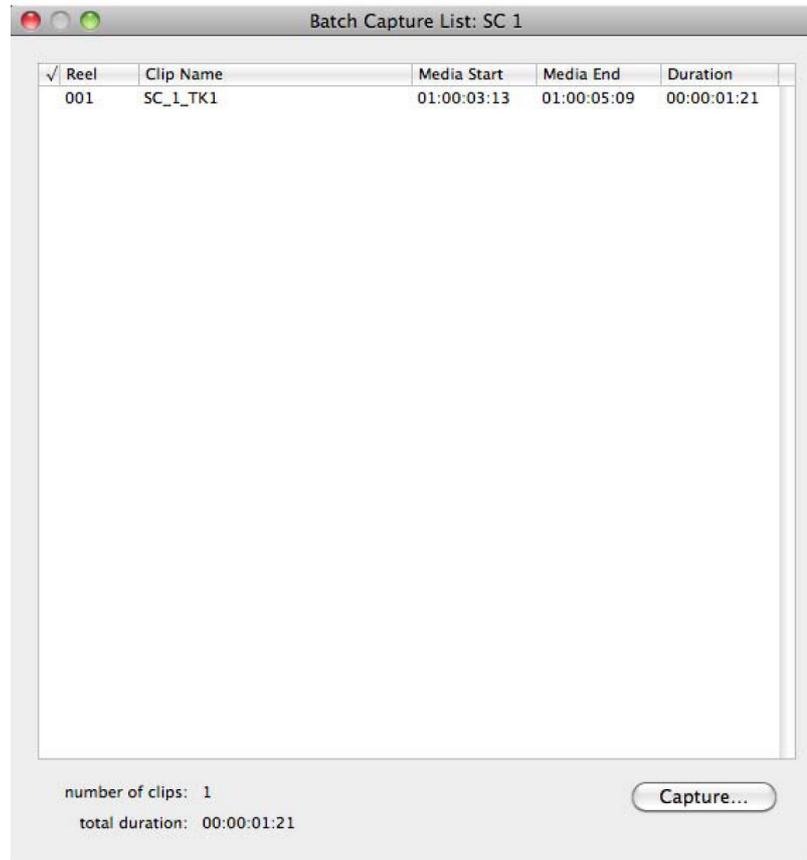
任意の保存先を設定したら、「Preferences」ウィンドウを閉じてください。

AJA VTR Xchangeのオペレートは非常に簡単で、おなじみのJ - K - Lキーによるキーボード命令によるVTR制御も行えます。



テープ上にイン点、アウト点をマークし、"log"ボタンを押すことで新しいバッチキャプチャリストを作成します。



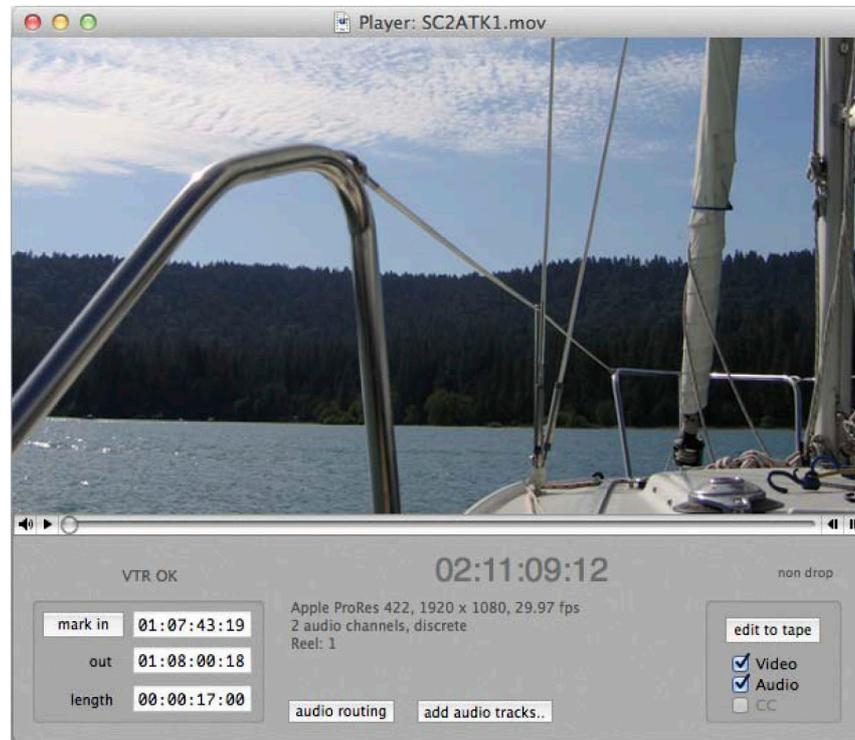


バッチキャプチャーリストにすべてのクリップを登録すれば、ウインドウの右下にある「Capture」ボタンをクリックすることで、1度にすべてのキャプチャーを実行することができます。

ノート：キャプチャーリストはXMLファイルとして保存されるので、後に開いて再度バッチキャプチャーを行うことができます。

クリップ ウィンドウ

クリップウィンドウはキャプチャーされたクリップのフォーマットなど、メディアに関する情報を提供します。またテープに書き出す際の編集点、ビデオ/オーディオ/クローズドキャプションの有無などを設定できます。



クリップウィンドウの底部にあるチェックボックスにチェックを入れることで、互換性をもつフレームレートで出力することが可能です。23.98fpsクリップを29.97fpsあるいは59.94fpsで出力するためにはチェックボックスにチェックを入れてください。

クリップウィンドウのもう一つの特徴は、「オーディオトラックを追加」ボタンをクリックして出力するオーディオトラックを追加する機能です。別のQuickTimeムービーファイル、またはAIFFオーディオファイルからオーディオトラックを使用することができます。オーディオトラックが追加されると、それに応じて表示される音声チャンネル数が増加します。audio routingをクリックすると、どのトラックをどの物理的なアウトプットにアサインするかを定められるオーディオルーティングツールを使用することができます（これ以前の設定は、このマニュアルの「オーディオの操作」を参照）。

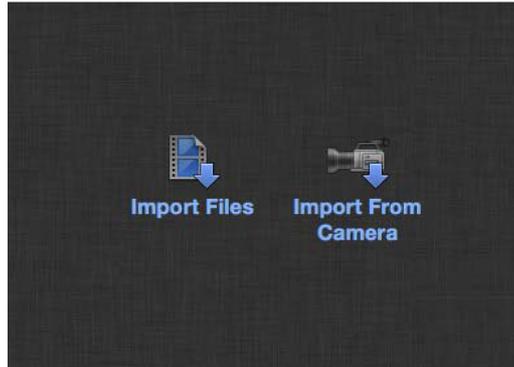
この機能は、Final Cut Pro Xで設定されたオーディオトラックを再アサインしたり、マスタリングを行う際に、ビデオファイルとは別にデジタルオーディオミキシングされたオーディオファイルが用意される場合などに便利です。



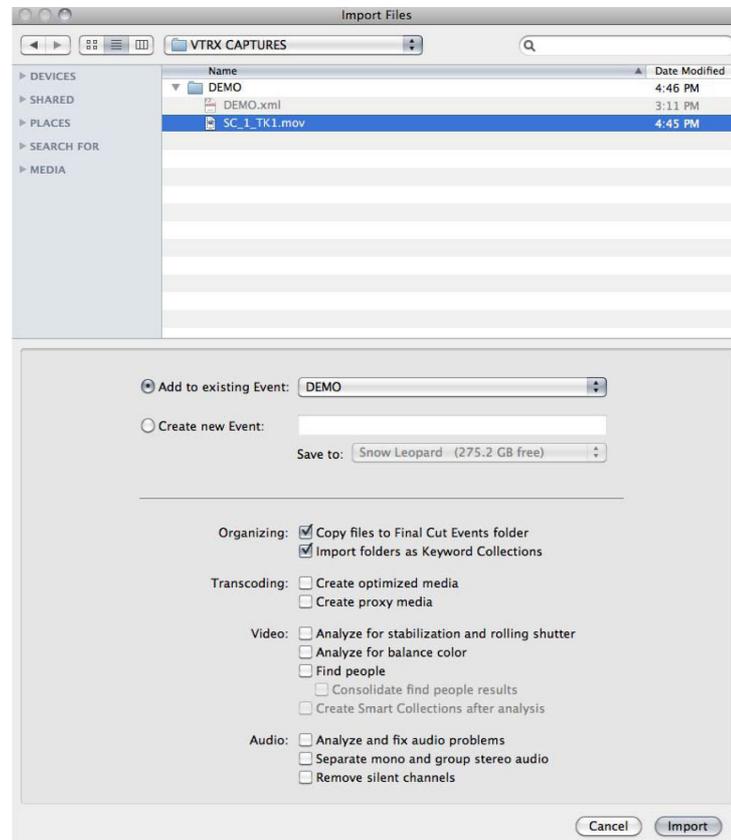
クリップのインポート

Final Cut Pro Xへのインポート

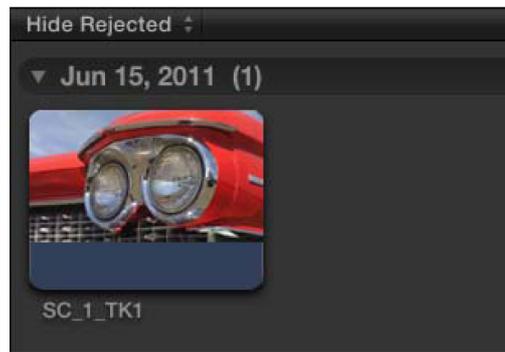
Final Cut Pro Xは、前バージョンのFinal Cut Proと異なり、メディアをインポートしません。メディアはFinal Cut Pro Xのイベントに読み込まれます。イベント名はデフォルトで現在の日付となりますが、プロジェクト管理に都合の良い名前に変更することが可能です。「ファイル」>「新規イベント」で新しいイベントを作成したら、表示される「ファイルを読み込む」アイコンをクリックしてクリップを読み込みます。



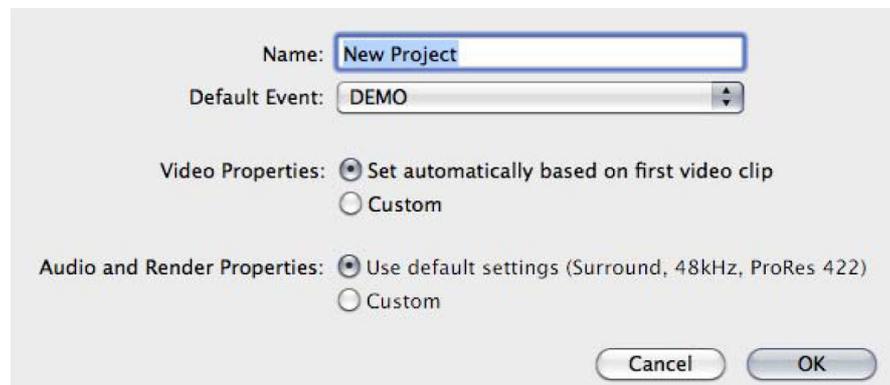
クリックして開いたウィンドウで読み込みたいクリップを探します。



Final Cut Pro Xは、ユーザーが選択できるいくつかの読み込み処理を提供します。Final Cut Pro Xのドキュメントを参照し、適切な設定のもと右下の「Import」ボタンで読み込みを実行して下さい。読み込まれたクリップが、作成されたイベントに現れます。



ファイルの読み込みと同様に、任意の設定をして新規プロジェクトを作成します。



クリップをプロジェクトタイムラインに配置して、スクラブ、マーカー、アウト点の付加、キーワードアサインなどを行うことができます。編集についての詳細はFinal Cut Pro Xのドキュメントを参照してください。

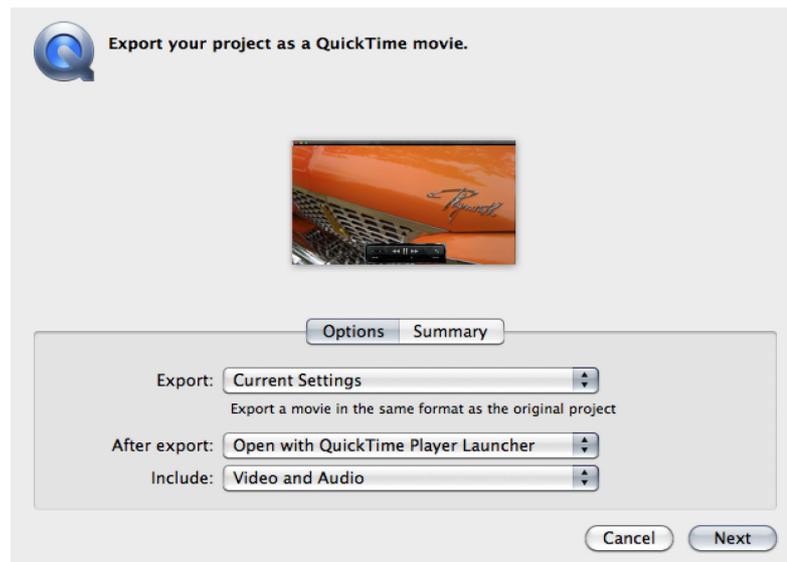
Final Cut Pro XとAJA VTR Xchangeからテープへの書き出し

Final Cut Pro Xからのクリップ書き出し

Final Cut Pro Xでは、テープへの書き出し方法が変更になりました。前バージョンのFinal Cut Proは、「テープに編集」機能を使うことでテープへの書き出しが行えましたが、Final Cut Pro Xにはその機能がありません。Final Cut Pro Xでは、はじめにQuickTimeムービーファイルとして書き出し、出力されたファイルをAJA VTR Xchangeを使ってテープに書き出します。

ノート：AJA VTR Xchangeはインサート編集を実行することしかできません。出力のためには、VTRの内蔵ジェネレータを使用したタイムコードや黒味入れなど、事前のフォーマット作業が必要となります。

Final Cut Pro Xのプロジェクトを選択し、「共有」>「ムービーを書き出す」と選択します。



ほとんどの場合、デフォルト設定のままQuickTimeムービーファイルを書き出すことができます。セッティングを変更したい場合は、Appleのドキュメントを参照して下さい。設定が完了したら「Next」ボタンをクリックします。

次いで、任意のクリップ名をつけて保存先を選択します。保存先には書き出すファイルタイプをサポートできる帯域幅と十分な領域が確保されていることを確認してください。

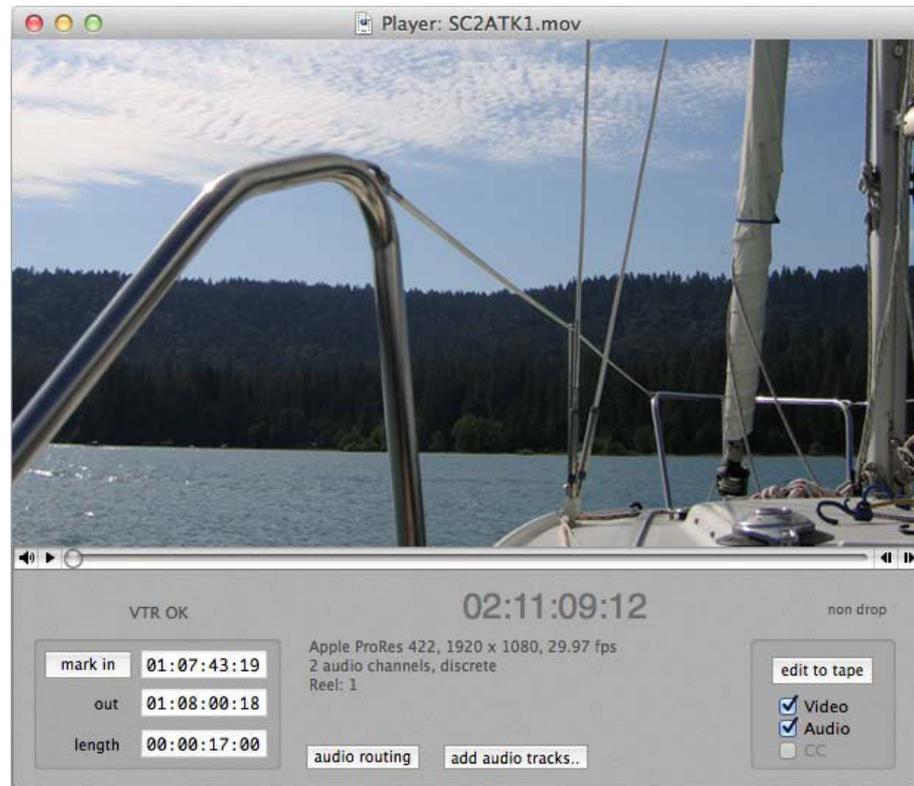
書き出されたムービーファイルは、AJA VTR Xchangeを使ってテープに書き出す前に、QuickTime Playerで開いてレビューを行ってください。

もし、修正が必要であると感じる場合は、再度Final Cut Pro Xからの書き出しを行ってください。

AJA VTR Xchangeからのテープへの書き出し

AJA VTR Xchangeを起動し、「File」>「Open」を選択してください。書き出したQuickTimeムービーファイルが保存された場所をたどり、QuickTimeムービーファイルを選択します。

VTR Xchangeは、選択したムービーファイルを新しいプレビューウィンドウで開きます。



テープに編集を行う前に、QuickTimeムービーファイルをレビューすることができます。

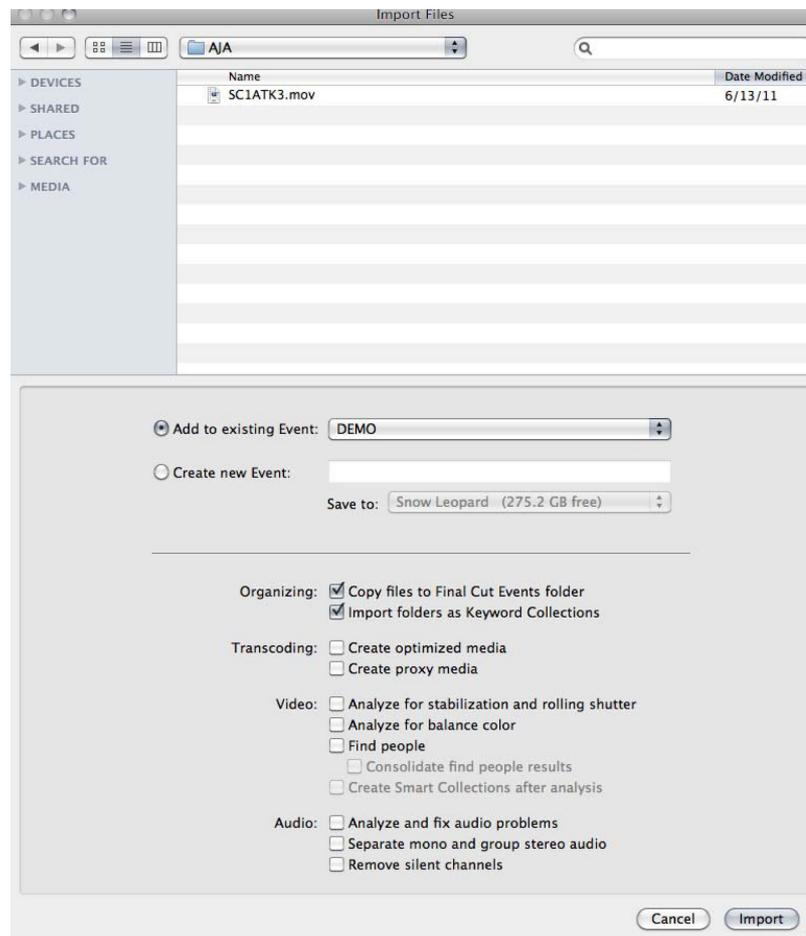
編集を掛けるイン点、アウト点、ならびに"audio routing"の適切な設定を行い、設定が完了したら"Edit to tape"ボタンで書き出しを実行します。

書き出し後は、AJA VTR Xchangeのメインインターフェイス上、あるいはVTR上で書き出し結果を確認することができます。

AJA Ki Pro ProResレコーダーとFinal Cut Pro X

Ki Pro / Ki Pro mini の価値

2009年、AJAは世界初のApple ProRes422ビデオレコーダー「Ki Pro」を送り出しました。Ki Proはさまざまなカメラと接続でき、Final Cut Proで即座に編集できるQuickTimeムービーファイルをカメラから直接収録することを実現します。2010年には、よりコンパクトなKi Pro miniをラインナップに加えています。Ki Pro、およびKi Pro miniによって収録されたファイルは、Final Cut Pro Xが動作するシステムストレージにコピーすることができ、そしてFinal Cut Pro Xのイベントへも読み込むことができます。Ki ProファミリーはFinal Cut Pro Xと組み合わせて使用するのに、まさに理想的です。



サマリー

編集の新しいあり方

Final Cut Pro Xはエディターに新しい編集方法を提示します。従来のFinal Cut Proユーザーになじみのアイテムにも変化がありました。しかし、Final Cut Pro Xは非常に柔軟で魅力的です。Final Cut Pro XとAJAのデスクトッププロダクトを組み合わせることで、取り込み、編集、書き出しなどの作業をユーザーに馴染みのある方法で提供することができます。また、AJAのKi ProとKi Pro miniはFinal Cut Pro Xとの組み合わせにおいては、最も現代的なファイルベースワークフローを実現します。このドキュメントで説明されるワークフローは、Appleが提唱するノンリニア編集の新しく、そして刺激的なフェーズへと移行するユーザーをサポートできるようにデザインされています。AppleのFinal Cut Pro Xの発展とともに、AJAは新しくエキサイティングな相互作用を提供することで、ワークフローの可能性を広げていきます。

より詳細な情報については、AppleのFinal Cut Pro X ドキュメント、あるいはAJAの製品ドキュメンテーションを参照してください。